ユースサービス
YOUTH SERVICE

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL. 11

若者を考える、若者と考える

農業が若者たちを待っている！

社会活動コアリーダー
3ヵ国の青年代表と交流しました

特集 農業が若者たちを待っている！ 3
ねっとわーく NPO法人 J-HANBS 7
内閣府青年社会活動コアリーダー育成プログラム ひろげたい、ユースワーク 3カ国の青年代表と交流 8
若者の政治離れに一石 選挙ドキドキプロジェクト 10
青少年活動センターのページ アジプロ（就労体験事業） 12
ユースかわら版 14

ぷち・メッセージ

「若者」との別れ方

一般財団法人　京都ユースホステル協会
総務部長
青田　真樹

僕は、若者ではない。

と思っていたが、世の中的にはそうでないらしい。
サポートステーションなど概ね40歳までを「若者」とした事業が増えているからだ。
「若者」にも高齢化社会の時代がやってきたようだ。

1992年と2012年を比較すると、
海外旅行へ行った人のうち若者（20～24歳）が占める割合は13%から7%に減少した。
一方、若者の人口で比較すると、16%から17%へ増加した。
20年で若者は約4割減少したが、日本人全体は増加している。

いまどきの若者は…かつてと変わらない。
変わったとすれば、人口比率が変わったことくらいである。

若者たちよ、
なんだ、先輩たちと一緒だということで安心する事なかれ。
もうすぐ「若者」と別れる日が来るのだから。
年齢が基準になることもあれば、
自らが別れを告げることもある。

僕から「若者」との別れ方を提案しよう。
それは、自らを教育することだ。
英語で、教育（Education）は、引き出す（educe）が語源といわれている。
ただし、誰かが引き出してくれるものではなく、自らを既成概念や誰かに敷かれたレールから引っ張り出すことである。

例えば、旅もその一つである。

（京都市ユースサービス協会評議員）

Youth Service ユースサービス

農業が若者たちを待っている！

下京青少年活動センター　ユースワーカー　上原裕介

ここに二つの最新データがあります。
そのひとつ、京都労働局がさきごろ発表した資料（新聞報道）によると、
今春卒業する京都府内の大学、短大生の就職内定率は67％で
依然約9千人の就職が決まっていないようです。
また高校生の就職決定率は1月末現在84％でした。
進路未定のまま学校を卒業したり、
学校からドロップアウトしたりすると、
なかなか就職口が見つからないのが現実です。

もうひとつ、日本の農業をめぐる問題も見過ごせません。
2010年のデータでは、農業者の平均年齢は65・8歳で、
うち35歳未満は農業者全体の5％と、後継者不足が深刻です。
その結果、誰も手を入れなくなった耕作放棄地が拡大し、
今では埼玉県と同じくらいの面積に及んでいます（農林水産省発表）。

このような現状を踏まえ、国も若者の雇用と農業問題をリンクさせ、
若者の就農をすすめる政策を打ち出してきました。
農業と若者との接点をいかに創るのか……。
この特集では、京都を拠点に展開する
若い農業ベンチャーの取り組みをもとに、
農業と若者の未来を探っていきます。

農業で独立起業するためのシステムづくり

株式会社マイファーム

京都市の中心地・烏丸五条にオフィスを構える株式会社マイファーム。2007年9月に設立され、体験農園マイファーム、週末有機農業学校マイファームアカデミーの経営を中心に「自産自消」の社会を目指しています。

体験農園マイファームは全国に70ヵ所あり、およそ10アールの農地を50区画ほどに分け、1区画4坪程度の農地を市民に提供しています。それぞれに管理人を置き、充実した指導・管理サポートがついていますが、管理人は20代の若い農業者も多いそうです。自分で生産し消費するという「自産自消」の過程で、生きることの中心にある「農」や「食」に向き合ってもらうことが目的です。

一方、2010年4月に滋賀県野洲市で開校した週末有機農業学校マイファームアカデミーでは、新しい生産者の育成に取り組んでいます。6ヵ月間、隔週土曜日に有機農法の専門的な知識と技術を学んでいきます。現在の受講者は25人、

うち半数程度が若者世代だそうです。取締役の岩崎吉隆さんは、「よく『就農』という言葉が使われますが、それは間違いです。農家になるのは、独立起業することなんです。その精神を持たなければ、農業で食べていくことはできません。でも逆に、農業は新しさや起業のチャンスに満ちた可能性の大きい領域だともいえます」と、農業には厳しさとおもしろさの両面があることを強調しています。だからこそマイファームアカデミーでは、農業で独立起業しようと考える人たちが一人前の農家として自立していくために必要なサポートを整備しようとしています。

今後は、国の若年者雇用促進制度も積極的に活用し、職業訓練としての農業者育成にも取り組もうとしています。岩崎さんは「食糧自給率を1%上げるには、5万人の農業者を増やすことが必要だといわれています。人と農を結びつけることを目指す私たちにとって、若い世代が農業に関心を持って参加してもらうことが重要です」と、若者たちに熱い視線を向けています。

百年先も続けられる農業を広めるために

株式会社坂ノ途中

一方、生産物を「売る」プロフェッショナルとして農業者をサポートしているのが、2009年7月設立の（株）坂ノ途中（京都市南区九条大宮下ル）です。いまの農業は、農薬や化学肥料を多用して土壌や河川を汚染し続け、農業の持続可能性をみずから破壊しているのが現実です。そこで、適正価格で有機野菜を売ることのできる農家を増やしていこうと考えたのが、代表取締役の小野邦彦さん。30軒ほどの提携農家に対し、「何を、いつ、どのくらい作るか」というマーケティング戦略を提案したり、関西を中心に全国約80ヵ所の販路を開拓し、有機野菜の普及を進めたり、インターネット販売や輸出にも乗り出したりと、精力的に活動しています。また、事務所1階の店舗では、少量しか採れない種類や種取りした後の野菜を販売しています。店舗では、店長の北村亜耶さんが、ふらっと立ち寄ったお客さんに有機野菜の味や調理法を説明し、有機野菜の理解者を広げています。小野さんは、「今は需要の拡大に合わせて提携農家1軒あたりの生産量もどんどん増えています。以前はアルバイトをしていた農家が、今では専業農家として自立できている」と、手ごたえを語っています。

提携農家の中には、20代～30代前半の若い農業人も少なくありません。小野さんは、都市部を中心に若者の生きにくさが拡大する現状の中で、多くの若者が農村で土に触れることのできる機会が必要だと話しています。「古い感覚にとらわれていない若い人が農業の現場に入っていけば、土壌本来の力で勝負する有機農法の良さが必ず分かってもらえるはずです」と、若者の参加に期待を寄せています。

京都市ユースサービス協会の取り組み
農業体験事業

土にまみれて畑仕事を覚えよう！北青少年活動センターの事業「農という職を知ろう」を始めて丸3年、左京区岩倉の畑や、滋賀県大津市の田んぼで、野菜や稲作に挑戦する若者たち。春先の耕地作業から稲の植え付け、成育栽培、秋の稲刈りと年間作業が続きます。お世話は農業指導者のNPO教育支援協会連合会京都支部長・川久保雅悦さんとグループのメンバー。

毎年4月から1年間、月2回の午後、若者たち数人が畑に通い、季節に合わせた作業に取り組んでいます。家にこもりがちな若者も土を相手に黙々と。野菜のもぎ取りや稲刈りがすむとホッと一息。畑仕事に慣れ、積極的に参加するようになった若者の一人は「できたら農業の道を目指したい」と本気になっています。

本職は洋服業ながら若者の教育支援に懸命の川久保さんは「この事業は初めて土に触れ農業の基礎を学ぶ場です。土が相手の仕事ならやれそうといった実直な若者を見ると、本当に教えがいを感じます」と話しています。新年度も農業体験事業「農業にふれよう！」は続きます。

若者に有機農業の明日を期待する

西村和雄先生に聞く

よく、若者が「だらしない」とか「希望がない」とかいわれていますが、私は、今どきの若者にむしろ期待しています。現状では、有機農業を実践しているのは農業者全体のわずか1％です。私は長く大学に勤めましたが、有機農法の研究に取り組む大学の研究者はほとんどいませんでした。

それが今、食の安全に関心が高まっていることもあり、農薬や化学肥料を使わない農業のほうが最先端でかっこいい、という価値観が若い世代を中心に広がりつつあります。南丹市日吉町にある私の自宅の畑で毎月開催している有機栽培の講習会には、意欲的な若い人たちがたくさん集まってきます。農業会議主催の新規就農フォーラムでも、参加者の9割が「有機農業をやりたい」と希望していましたが、既存の農業団体はそうした若者の熱意にほとんど応えることができません。いくつかの大きなハードルもありますが、なんとかして若者を有機農業に呼び込みたいと、あの手この手で実践しています。

ハードルのひとつは、農家に耕作放棄地の有効活用を促すことです。保守的な農村部では、見ず知らずの他人に土地を貸すという発想そのものが乏しいので、若者を必要としている中山間地域などを狙って説得してきました。もうひとつは、「3K」「4K」といわれ続けてきた農業の固定観念を打破していくことです。今、マイファームアカデミーの講師として滋賀県野洲市の農場で若者たちと関わっていますが、それほど気構えなくてもコツを押さえれば栽培は難しくないのだと伝えています。そして最後に資金面です。農林水産省がようやく青年就農給付金制度を創設しましたが、就農するには土地や農具が必要であり、身ひとつで飛び込むことはできません。農業に対する若い人たちのモチベーションをいかに引き出していくかが、私たちに問われています。

西村　和雄（にしむら　かずお）

1945年、京都市生まれ。京都大学農学博士、NPO法人京の農ネットワーク21理事長。京都大学農学部助手、同フィールド科学研究センター講師等を歴任。著書に『スローでたのしい有機農業コツの科学』『おいしい野菜の見分け方』『新・ぐうたら農法のすすめ—省エネ有機農業実践論』など多数。

わくわくワーク

特定非営利活動法人 J-HANBS（日本ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド・ソサエティ）

●ミッション

ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド（人と動物と自然との絆＝HANB）、すなわち人と動物と自然との相互作用をめぐる科学の研究に関し、情報収集及び普及活動を行うとともに、その研究成果を児童教育、社会教育、福祉、医療、自然環境等に役立て、これらの公益の増進に貢献することを目的とする。

●設　立

人と動物と自然の間に生まれる、人の心身への影響を、科学的に解明しようとするヒューマン・アニマル・ボンド（HAB）の研究は、1970年代に欧米の学者たちによって始められ、その研究成果により、人と動物と自然との触れ合いは、子どもたちの脳の発達に不可欠であり、また人と動物双方の心身にもよい影響を与えることが明らかになりました（HAB には自然を大切にするという意味も含まれるので、HAB に〝Nature（地球環境の保全）〟を加えた「HANB」を提唱）。この総合科学的研究の成果を、人と動物双方の教育・福祉・医療に活かし、自然環境の保全と、安全で平和な地球社会のために役立てる努力を、世界に先がけて主張・実践していきたいと願い、2000年に設立されました。

●代　表

加藤 元
（獣医師、JAHA創設者、コロラド州立獣医科大学客員教授）

●わたしたちの活動

動物や自然とのふれあいを通じ、人と動物、自然の絆の大切さを、子どもたちへ体感・体得・気づきとして促すHANB教育を普及させるため、小中学校や高校、および大学でのHANB講座などを実施しています。

その他、学校などの教育現場や地域のコミュニティでHANB教育を実施するため、先生方をサポートするHANB教育インストラクターの養成事業や、HANBレスキュー・プログラムとして、東日本大震災義援金の募金活動やチャリティーイベントの開催、被災地の動物救援活動なども行っています。

住　所 東京都渋谷区広尾 5-24-1 広尾ユタカタワーズ 201（月～土曜日　午前 9 時から午後 6 時）
電　話 03-5791-7081　Ｆａｘ 03-5791-7082　メール post@j-hanbs.com
URL http://www.j-hanbs.com

内閣府　青年社会活動コアリーダー育成プログラム

ひろげたい、ユースワーク。

3ヵ国の青年代表と交流、学びました

青少年分野で活躍している 3 カ国の青年代表 13 人が、京都のユースワークの現状を学び、交流するため、さる 2 月 14 日に入洛。京都での現場訪問や情報交換をしました。
この事業は、国際間の国家事業とした 10 年前から始めたもので、今回は、デンマーク、ドイツ、ニュージーランドの 3 カ国からの参加。青少年部門の青年グループが、セミナーやホームステイを体験しました。
18 日に開催されたセミナーでは、各国代表がお国事情を紹介し、理解を深め合いました。

プログラム 2011　京都府青少年コース

14 日	11:41	京都駅着
	14:00-16:00	京都府庁表敬訪問
	16:15-17:00	京都市長表敬訪問
	19:00-21:00	歓迎会（ハートンホテル京都）
15 日	10:00-12:00	特定非営利活動法人　京都 ARU 訪問
	14:00-16:00	公益財団法人　京都地域創造基金訪問
16 日	10:00-12:15	財団法人京都市ユースサービス協会訪問
	14:00-16:30	山科青少年活動センター訪問、京都 BBS 連盟代表と意見交換
17 日	14:00-16:00	東山青少年活動センター　訪問
18 日	9:30-16:15	地方セミナー国別発表（京都府中小企業会館）、分科会
		ホームステイ
19 日	14:20-15:30	評価会（メルパルク京都）
	16:02	京都駅発

デンマーク

青少年が抱える課題（犯罪、虐待や社会的・心理的問題など）に対して、ソーシャルワークを行っています。「ソーシャルワークとは、対象者との関係に基づくもの」というのが一般的な考え方で、「できないこと」よりも「できること」に重点を置きます。現場のソーシャルワーカーは、正式な教育を受けた人がより好まれますが、採用する際には、子どもや若者と関係を構築する能力と誠実さを重視しています。専門スタッフ（精神面）には、物事をトータルにとらえる能力や認知能力、話術を求めます。人材を育成するためには、コーチングやスタッフのスキルと能力の開発にブレがないことがあげられます。個人だけでなく、組織での学習も重要で、継続的に学び、知識を伸ばしていくことが大切です。

ドイツ

中間支援を行うためには、現場のユースワークよりも広範囲で全ての分野に精通することが要求され、特に財政的スキルとネットワークづくりのスキルが必要です。理想的な中間支援団体の職員は、「ロビーイングの背景に熟知している弁護士や広報の専門家」「資金集めと財政管理に詳しいビジネスマネージャーやエコノミスト」「コアスキルを習得している教育者やソーシャルワーカー」がふさわしいとされ、それぞれの不得意分野の研修が必要となっています。

プロとしてキャリアを築くうえで、スーパービジョンは必須です。スーパーバイザーは組織の外の人間が行うことで、どこに問題があるかを理解する助けとなります。燃え尽き症候群を防ぐためにも適正量のやる気を維持することなどが大事だと考えています。

ニュージーランド

青少年が、自主的にリーダーシップをとれるような環境づくりをしています。

①安全…暴力のない環境、青少年が平等に参加できる安全な場所。
②尊重…自らの文化、信条の多様性を尊重、称賛する。
③参画…青少年に関係のある問題を議題に取り上げる。
④つながり…志を同じくする青少年をつなぐ。共有し学べるネットワーク上の場所の確保。
⑤技能…強み、才能、可能性を大切にする。

体験学習（野外教育や地域ボランティア）に参加してもらい、ライフスキル（生きる力）を身につけてもらっています。読み書き計算、栄養学やお金の使い方を学ぶ機会も提供しています。

これらをもって、若者の可能性をひきだし、自分自身の役割を明確にしていくことが大切だと考えています。

日本

若者が「ありたい自分」に近づくための協力者である私たち「ユースワーカー」の活動場所は、京都市内に 7 カ所ある青少年活動センターと地域がメインでしたが、学校（就労支援）や引きこもる若者の自宅もフィールドになってきました。「ユースワーカー」に特に必要な力は、関係構築力のほかに事務能力や事業企画力、マネジメント能力、専門知識の取得だと思っています。

京都市ユースサービス協会の挑戦として①資格づくり（大学と共同のユースワーカー養成専門コースと協会独自の資格取得コース）②実践から学ぶ環境として、事例研究会やコンサルテーションの機会に取り組んでいます。

このような機会は、私たちユースワーカーや京都で活動する青年にも大きな刺激となりました。私は、昨年度のコアリーダープログラムに参加し、日本各地で活躍する若者と一緒に、英国の現状や取組について学びました。共通の課題にふれ、改めて今後のユースワークの発展にいかしたいと思っています。
（北青少年活動センター　チーフユースワーカー　宮川知子）

■参加協力した感想（ＢＢＳ）

・評価プランのことや寄付金のことなど普段考えない視点についての意見を聞いたことが印象的で、自分の伝えたいことが伝わらないことも衝撃的でした。
（立命館大学衣笠地区 BBS 会　辰己大貴）

・海の向こうにもＢＢＳの活動があり、頑張っている人達が沢山いるのを実感しました。運営面（特にマネジメントや広報等）については学ぶことが多く、これからの団体運営に活かしていきたいと思います。
（中京西地区 BBS 会　大橋伸弘）

若者の政治離れに一石

選挙ドキドキプロジェクト

若者の政治離れがますます顕著になっています。総務省調査によると、全国統一地方選挙の投票率は平成3年の68・07％から減少が目立ち、平成19年には53・67％。京都市長選挙でも平成12年に45・90％、同16年には38・58％、同20年には37・82％と減少しています（京都市選挙管理委員会事務局HPより）。

政治離れは若者世代に限らず、国民全体にいえることですが、年代別にみると、平成22年の第22回参議院通常選挙では20～24歳が33・68％、25～29歳が38・49％と全体の平均59・93％を大きく下回り、若者年代の投票率の低さが際立つ結果となりました（総務省選挙部HPより）。

投票に行かない理由は、「関心がない」、「用事がある」、「適当な候補者も政党もなかった」などさまざまですが、若者自身が社会の一員として、自らの一票で意思表示することは重要なことです。そこで、(財)京都市ユースサービス協会は、若者の選挙や政治への関心を高めるための取り組みとして「選挙ドキドキプロジェクト」づくりを呼びかけた結果、大学生3人と社会人2人の計5人が集まり、昨年10月から活動をスタートしました。

プロジェクトの概要

「選挙ドキドキプロジェクト」では、

①若者の政治に対する意識を向上させること
②政治に参加できることに若者自身が気づくこと
③自ら政治に働きかける若者がいること

の3点を、大人や行政にも意識させることを目的に、「政治にあまり関心のない若者」そして「大学生年代を中心に高校生から20歳代」をターゲットに働きかけました。

具体的な取り組みとしては、京都に暮らす若者から「自分が市長になったら○○したい」という意見を集め、寄せられた217件を101項目に集約し、「若者からの逆マニフェスト」として、今年2月の市長選挙立候補者に提示し、各項目について○×形式（○＝実行する、×＝それ以外）で回答をいただきました。

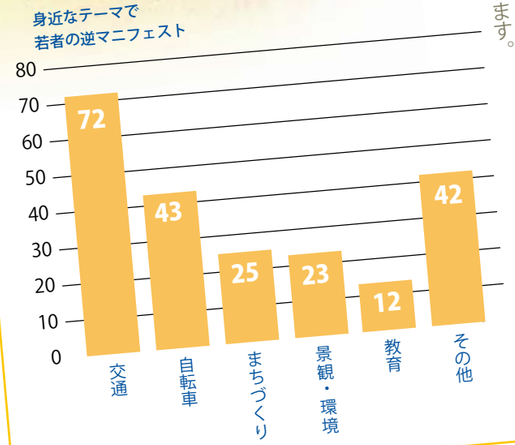
プロジェクトを代表して

選挙ドキドキプロジェクト代表
谷川詩織さん（立命館大学3回生）

意見募集の中身は、自転車やバス交通など学生が身近に感じている事柄が多かったけれど、本当にたくさんの立場の人に影響するから、自分だけの視点で考えたらだめなんやなあって思いました。×がダメなんじゃなくて、実現可能性とかを考えることが大事だと。

選挙前のとても忙しい時期、候補者や事務所の方に時間をとってもらうのは無理なんじゃないかと思ったんですが、協力して頂いた皆さんに感謝しています。

若者が市政に参加する機会やきっかけさえあれば、いろいろ考えたり、行動したりすると思うんです。「最近の若者は…」とか「どうせ若者は…」とかいわないで、もっと若者にそういう機会があることを伝えてほしいと思います。



メンバーの感想

- 政治ってバランスが必要で、複雑なものなんだと改めて感じた。
- 政治に興味がなかったが、身近な生活に結びついていることを実感した。次は投票しようと思う。
- 候補者からの回答を得るのにいくつものハードルがあったが、そのたびに多くの人に協力してもらい、回答を公開できて充実している。
- 若者の意見には自分目線（自己中心的）のものが多かった。○×の結果だけでなく、その理由（なぜできないか）も伝えないといけないと思う。

今後の展望

メンバーの感想にもある通り、逆マニフェストへの回答を公開して終わりではなく、「なぜそれが実行できないのか」、「違う視点から見たらどうか」といった部分を、若者自身が考え、検証できるような機会が持てれば、と考えています。

また、若者が政治に関心を持つためには、大人が「こうしたら身近に感じるだろう」と用意するのではなく、若者自身が「こうすれば身近に感じる」というアイデアを実行していけるよう、今後も取組を進めたいと考えています。

中京青少年活動センター　チーフユースワーカー　大熊　晋

逆マニフェストの一部と回答例

	A候補	B候補
市内の街灯を蛍光灯からLEDに変更する。（右京区、20歳、男子学生）	○	○
ダンスの授業を小学校にも拡大する。（左京区、21歳、男子学生）	○	×
市バスを民営化する。（北区、21歳、男子学生）	×	×
市バス停車駅に並ぶための列の表示をつける。（上京区、20歳、女子学生）	×	○
京都市内にある公共施設にWI-FIのアクセスポイントを設置する。（中京区、27歳、男性会社員）	○	○
外部から公務員を査定できる仕組みをつくる。（右京区、21歳、男子学生）	○	×

詳細は協会HP内で公開しています。http://ys-kyoto.org/wp-content/uploads/2012/03/kaitou.pdf

青少年活動センターのページ

パレットハウスと「アジプロ」

事務体験

これまでパレットハウスから、沢山の利用者さんが「アジプロ」に参加しています。皆かなり緊張感やプレッシャーを抱えて参加しますが、やり遂げた時に得る自信は絶大なモノがあります。

「アジプロ」に参加した利用者さん達の姿や話を聞いて、他の利用者さん達も大いに刺激を受けて「次は自分も」という思いにつながっていきます。

スタッフとして水面の上を静かに広がっていく、波紋のような優しい影響を見守って応援していきたいと思います。

（特定非営利活動法人パレットハウス　指導員　小田晃）

アジプロを終えての感想

○ 20 代女性（アジプロ・喫茶体験）

体験は段階を踏んでステップアップできたことが本当に良かったです。体験自体も非常に楽しかったのでやってみて良かったという気がしみじみしました。

いつも「ふりかえり」があったのが、良い時間でした。意見や気持ちをいい表すのは苦手なので毎回苦労しましたが、言葉にすることで自分の中にあるものを確認することができました。

○ 20 代男性（アジプロセカンド・宿泊施設体験）

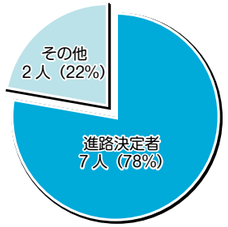
楽しんで働くことを体験しましたが厳しさも学びました。手ぎわが悪かったり、次に何をしたら良いのか分からなかったり、よく注意を受けました。最初は注意されるのが嫌でビクビクして受け入れられなかったのですが、気に掛けてもらえているんだと考えを改めると、注意されても落ち込まず受け入れることが出来ました。仕事は生活の手段かもしれませんが、携わった人の人間性を高めてくれるものだと思います。体験前と比べて、自分は社会でもやっていけるんだと思いました。

次へのステップ　アジプロセカンド

アジプロはあくまで働くおためし体験です。不安軽減のきっかけとなりますが、「アルバイトをしたいがもう少し体験をして自信をつけたい」という方は就労現場での体験、アジプロセカンドにつながっています。

アジプロセカンドは週３日４～６時間、約１ヵ月の体験です。体験をする事業所で面接を受け、体験開始。体験後は毎回ふりかえり日誌を書き、現場職員にコメントをもらいます。あわせて、その日のうちに電話報告も行うことで、体験での作業や感じたことを自分の言葉で表現する力がついていきます。アジプロと同様、ふりかえりをサポステ職員と一緒に中盤と体験後に約１時間ほど行います。最後まで体験を終えたことはもちろんのこと、現場職員から客観的なフィードバックがあることで現実とのギャップが更に埋まり、就労につながりやすくなります。

（京都若者サポートステーション
ユースワーカー　冨田祐子）



2007 年 12 月～ 2011 年 12 月
アジプロセカンド参加者

「アジプロ」

京都若者サポートステーション（以下、サポステ）では、就職活動に一歩踏み出せずにいる若者のための就労体験事業「アジプロ」を 2007 年 9 月から行っています。

あ たまと体をつかって「働く」ことを じ っかんする プ ロ グラム

アジプロとは

喫茶体験

2006 年のサポステ開設時は相談とセミナーを主にしていました。当時、利用している若者の多くが「働かなければいけない」という気持ちの一方で、働くことに躊躇し「自信がない」と行動できずにいました。そこで若者が自信をつけるためには体験（成功・失敗を含めて）を通じて実感することだと就労体験事業を立ち上げました。

まず、カフェに興味のある若者が多いこと、また体験でどういうことをするかイメージがつきやすいことから南青少年活動センターの喫茶コーナーを活かし、喫茶体験をスタートさせました。一方で、接客に抵抗のある若者で事務職に興味がありながらも電話応対に苦手意識をもっている人も多かったため、下京青少年活動センターでの事務体験をその２年後に始めました。

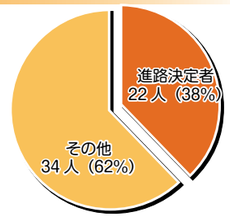
窓口応対の事前研修

アジプロは２～３日の事前研修からはじまり、３～４日の体験、１日の全体ふりかえりを行います。事前研修では講師をむかえ、社会人としてのマナーや接客あるいは電話・窓口応対の基礎を学んだ後、ロールプレイをし体験に備えます。喫茶体験では調理を含む開店準備から開店後はホールスタッフを中心にカフェ運営をします。事務体験では下京青少年活動センターの職員として電話と窓口応対をしながら、体験者同士で次クール参加者向けのチラシ作成をします。

体験者の多くはコミュニケーションに不安があり、グループでの体験から他者との関わり方を体感します。体験を無事最後まで終えると、自信がつき仲間を実感します。研修時は緊張でその場にいるのもやっとだった若者が、体験を終え最終日のふりかえりで「働くことが楽しいと感じることができた」と発表し大きな変化がみられました。

ふりかえりの大切さ

アジプロの特徴は丁寧なふりかえりです。体験後に必ず１時間 30 分ほど体験者と職員でふりかえりの時間を設けています。体験直後は失敗や出来ていないことに目がいきがちになり、不安な状態に陥っています。それを乗り越えられるよう、ふりかえりでは自身が向き合うべき課題を他の体験者と職員でじっくり話し合います。体験メンバーそれぞれが現実とのギャップを徐々に埋めていき、最終日の全体ふりかえりで次へのステップを明確にします。もし、不明確なまま就労に結びついたとしても自身の課題解消につながっていないため、すぐに仕事を辞めてしまう可能性が高くなります。



2007 年 9 月～ 2011 年 12 月
アジプロ参加者

ユースかわら版

事業レポート

北こみフェスタ　～つながる、ひろがる、交流の輪～

３月 10 日（土）に「きたせい」で、青少年が北区身体障害者団体連合会や地域の皆さんと一緒にお祭りをしました。バンド演奏や紙芝居などのステージ発表（要約筆記、手話あり）、マジックやゲームなどの体験プログラムのブース、カレーやバケツプリンなどもありました。約 200 人の青少年や地域の方々が来場し、とても賑やかな 1 日となりました。

陶芸ワークショップ haru うらら♪ お花見セット

１月 24 日から２月 21 日にかけて計４回、東山青少年活動センターで、手びねりとたたら成形で、春をイメージした器や酒器など自由に作陶しました。参加者は７名。みなさん、交流を楽しみながらこだわりの作品を仕上げました。最終日にはお菓子を少しずつ持ち寄り、作った器を使ってお茶会を実施。思い通りにいかない「難しさ」と「面白さ」を経験できたことが、情報が溢れる生活の中での、新鮮な経験となったようです。

高校生企画のフットサル大会とバスケットボール大会！

下京青少年活動センターでは、３月４日（日）にフットサル大会「KOBATY CUP」を、３月 10 日（土）にはバスケットボール大会「出逢いの Basket Ball」を開催しました！どちらも、センターを利用する高校生グループが企画・運営したイベントで、毎週火曜日の 17 時～ 19 時にスポーツルームで実施している「中高生のためのフリータイム」がきっかけとなって生まれました。違う学校、違う学年の参加者が集まり、スポーツを通した新たな交流の輪が広がりました。

ケーキングマイセルフ

２月 11 日、南青少年活動センターでお菓子づくり教室「ケーキングマイセルフ」を開催しました。バレンタインが近いこともあり、女の子を中心とした中学 1 年生から 21 歳までの７名が参加、“トリュフチョコレート”を作りました。チョコレートをきざむ作業では「めっちゃ大変！明日、筋肉痛なるわー！」と大盛り上がり。ラッピング作業ではそれぞれが満足いくまで真剣に取り組んでいました。初めて青少年活動センターを訪れたという中学生も交えて、終始笑いの絶えない楽しいプログラムとなりました。

Media Pub 事業　「富翁プロジェクト」

伏見はわが国有数の酒どころとして有名ですが、伏見青少年活動センターの周辺には大小 24 もの酒蔵が点在しています。「富翁プロジェクト」では、大学生２人、高校生１人の撮影クルーが創業 350 年の「北川本家」を２ヵ月以上かけて取材し、５人の蔵人の視点を通して酒造りの工程やその心を描いたすてきな動画作品に仕上げました。伏見青少年活動センターでは、これからも若者の手で伏見の文化や遺産、産業を動画に収めて、世界に発信していこうと考えています。

事業案内

居場所プログラムやっています！

あなたにとっての「居場所」はどこですか？ 学校？ 家？ バイト先？ 友達の輪の中？恋人のとなり？いろんな「居場所」があるけれど、北青少年活動センターでは毎月第 2･4 土曜日に、お茶を飲みながらゲームをしたり、お菓子を作ったり、散歩に行ったりする、「ごぶ SAT（ごぶさた）」というプログラムを実施しています。来る人みんなが楽しめて、ホッとできて、誰かと話ができる「居場所」です。ちょっと行ってみようかなと思った時に、ちょこっと寄れる。そんな「居場所」を一緒につくりませんか？

ストリートダンス教室開講！

下京青少年活動センターでは、HIPHOP、JAZZ など様々なジャンルをとりいれたストリートダンス教室を、５月から毎週木曜日に開講します！ まったくの初心者も OK の初級クラスは 18:30 ～ 19:45、経験者向けの中級クラスは 19:45 ～ 21:00 で、見学や体験参加も可能です。講師は、有名アーティストのバックダンサーも務める実力派ダンサー MIHO 先生。まずは４月 21 日（土）の 16 時～ 19 時、一日体験デーに参加してみよう！

中学生のスポーツタイム

新学期が始まると、新中学１年生が新しい利用者になります。初めて自分の意志で部屋の利用・予約ができるようになりますが、センターがどんな所か不安を感じている中学生が気軽に参加できるのがこのプログラムです。毎週土曜日午後３時から５時まで、山科青少年活動センターのスポーツルームを中学生限定で予約なしで利用できます（種目は卓球）。新しい知り合いを作り、ユースワーカーと親しくなる大切な機会です。

ロビー喫茶

南青少年活動センターでは、ロビーの喫茶コーナーで、毎週月･木曜日の夕方に「ロビー喫茶」を実施しています。大学生年代のボランティアスタッフが、ホットケーキやスープ、サンドイッチといった軽食を提供しながら運営しています。センターを訪れた中高生や大学生団体などが利用しています。また、喫茶を利用するみなさんとスタッフが一緒にゲームをしたり、時には勉強の相談に乗ったりしながら、様々な交流や関わりが生まれています。喫茶を通じて、誰かとお話ししたい、勉強の相談に乗ってほしい、学校や家以外でゆっくりできる場所がほしいという方はぜひ一度のぞいてみてください。

研修レポート
「若者に中間就労の場を～新たな学びと働き方を目指して～」

子ども・若者支援室支援コーディネーター　亀高 達雄

２月 18、19 日に神戸で開催された、「社会的ひきこもり支援者全国実践交流会」に参加しました。交流会は、支援者や当事者が一体となり、社会的ひきこもりの現状や支援について理解を深めていくものでした。特別シンポジウムで、シンポジストの一人が福祉的就労の賃金の低さや一般就労へのハードルの高さを指摘し、「社会的雇用制度」の創設を提言していました。そのなかで、「中間的就労」が必要と発言されていたのが印象に残りました。

私は子ども・若者支援室で、さまざまな理由で生活しづらい若者の支援にあたっていますが、就労の一つ前の段階に、働きながら社会参加や就労への意欲、対人関係の向上などのプラス対価を得ることができる場が必要ではないかと感じていました。中間的就労という選択肢が生まれ、拡大していくことで、無業者らの働く場や社会参加の場として活用され、そこが自己実現への手段の一つになることを期待します。

ユースサービス
VOL.11
2012年4月1日発行

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。
家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター
住　所：〒605-0862　京都市東山区
清水5丁目130-6　東山区総合庁舎2階
ＴＥＬ：075-541-0619
ＦＡＸ：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター
住　所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町 72
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：075-671-0356
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター
住　所：〒603-8165　京都市北区紫野
西御所田町 56　北区総合庁舎西庁舎３階
ＴＥＬ：075-451-6700
ＦＡＸ：075-451-6702
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター
住　所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町 42
ＴＥＬ：075-593-4911
ＦＡＸ：075-593-4916
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター
住　所：〒612-8062　京都市伏見区
鷹匠町 39-2　伏見区総合庁舎４階
ＴＥＬ：075-611-4910
ＦＡＸ：075-604-4910
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター
住　所：〒604-8147　京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町 262
ＴＥＬ：075-231-0640
ＦＡＸ：075-231-1231
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター
住　所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町 90
ＴＥＬ：075-314-5636
ＦＡＸ：075-314-5640
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間　平日：午前 10 時～午後９時
日祝：午前 10 時～午後６時

休 館 日　水曜日・年末年始
（12/29 ～ 1/3）

発　行
財団法人　京都市ユースサービス協会
〒604-8147　京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681　　fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印　　刷：株式会社谷印刷所

デザイン：自然堂株式会社